

各位

会社名 株式会社ひらまつ
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 遠藤 久
(コード番号 2764 東証スタンダード)
問合せ先 経営管理部執行役員 服部 亮人
(TEL: 03 - 5793 - 8818)

中期経営計画の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2022年5月13日に公表した中期経営計画について2025年3月期計画を修正することを決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2025年3月期計画の修正

	2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	計画	実績	計画	実績	当初計画	修正計画
売上高(百万円)	11,763	12,376	13,071	13,859	14,432	10,441
営業利益(百万円)	▲623	▲617	12	266	1,000	280
経常利益(百万円)	▲720	▲612	▲85	175	902	217
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	▲759	▲904	▲123	▲153	863	184
1株当たり当期純利益	▲10.74	▲12.79	▲1.75	▲2.17	12.21	2.62

2. 修正の理由

当社は、2023年3月期を初年度とする中期経営計画をスタートさせ、初年度の営業キャッシュ・フローの黒字化、2年目の営業利益の黒字化、最終年度の営業利益10億円の達成に向け、アフターコロナの事業環境を見据えた成長戦略の実行を推進してまいりました。2年目となる2024年3月期は、新型コロナウイルス感染症の「5類感染症」移行後における堅調な外食及び国内旅行需要をとらえ、売上最大化に向けた各種企画の打ち出しや、当社ならではの「付加価値の向上による単価アップ」施策などが奏功し、レストラン、ブライダル、ホテル全ての事業において前年を大幅に上回り、連結累計期間において過去最高売上を更新する結果となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限が解除され社会経済活動の正常化が進んだことや、円安によるインバウンド需要の増加など、明るい兆しが見える一方、世界情勢の緊迫化、資源価格や原材料価格の高騰による物価上昇や人件費や物流費の上昇など、当社を取り巻く事業環境は引き続き厳しい状況にあります。また、当社は、新型コロナウイルス感染症による減収の影響により前連結会計年度まで継続して経常損失を計上しており、一部金銭消費貸借契約における財務制限条項に抵触していることから、各金融機関との間で2024年7月末まで既存借入に関する貸付元本の返済猶予について合意している状況であります。

今後の持続的な企業価値向上のためには、ホテル事業の資産効率の見直しによる財務体質の改善が最適な戦略であると判断し、これまでの資産保有と運営が一体化されたビジネスモデルから、レストラン事業と同様に運営に特化したビジネスモデルへ転換するため、当社が保有するホテル資産を譲渡し、対象ホテルの運営を受託する契約を締結することといたしました。対象ホテルはこれまでと同様に当社が運営を継続し、オペレーターに徹することで当社の強みである食を基盤とする滞在価値の更なる強化を図り、ホテル事業の価値向上及び収益最大化を目指してまいります。

また、ホテル資産売却で得る資金の一部を借入金の返済に充当することで金融機関との取引正常化による財務健全化を早期に図り、大きく変化する事業環境への対応と、今後の成長投資を機動的に実行出来る体制を整えてまいります。これらの詳細につきましては、2024年3月27日公表の「当社保有ホテル資産の譲渡に関する売買契約及びホテル運営に関する運営委託契約の締結並びに資本業務提携解消に関するお知らせ」をご参照ください。

ホテル事業を再構築することに加え、想定以上に長引いた新型コロナウイルス感染症拡大による影響や、原材料価格の高騰による物価や人件費、物流費の上昇など、計画を策定した当時から事業環境が大きく変化したため、現中期経営計画の最終年度となる2025年3月期の計画を修正することといたしました。

ホテルの事業構造の変更により、2024年7月以降のホテル売上がGOPに一定比率を乗じた数値となり大幅な減収になることに加え、現中期経営計画策定時に想定していなかったレストラン「アルジェント」（銀座）の退店、及び、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により新規事業が未着手であることから、既存店での比較を下表で示しております。

中期経営計画最終年度（中計Y3）と2025年3月期計画値との差異				計画差を分かり易くするため補正値によって比較				
単位：百万円				単位：百万円				
	2025年3月期	中計Y3	差異		2025年3月期 補正	中計Y3補正	差異	
売上	10,441	14,432	▲3,991	既存店ベースに補正 ●2025年3月期計画値補正 ホテルを総売上として補正 ●中計3Y補正 ①想定していなかった アルジェント退店を補正 ②その他売上で想定した 新規事業を未着手として補正	売上	13,831	13,568	+263
レストラン	5,326	5,441	▲115		レストラン	5,326	5,218	+107
プライダル	3,578	3,959	▲380		プライダル	3,578	3,658	▲79
ホテル	1,298	4,571	▲3,272		ホテル	4,689	4,571	+117
その他	237	460	▲222		その他	237	120	+117
営業利益	280	1,000	▲718		営業利益	280	840	▲559
経常利益	217	902	▲684	補正後の2025年3月期と中計Y3の比較 ●売上は既存店ベースで増収 ●利益は中計経営計画策定時からの環境変化により各種費用が増加し減収 ・業界全体の人員不足により採用コストや人件費の大幅な増加 ・円安やエネルギー価格の高騰による物価高により販管費の大幅な増加				
当期純利益	184	863	▲678					
EPS（円）	2.62	12.21	▲9.59					

2025年3月期計画の売上は、現中期経営計画の最終年度の売上に対して既存店比較で増収となっております。一方、現中期経営計画策定時から環境が変化し、業界全体の人員不足により、採用コストや人件費が大幅に増加していること、及びエネルギー価格の高騰や円安による物価上昇により販管費が大幅に増加していることから、利益においては減益とさせていただきます。

2025年3月期は、これらの費用構造を中長期的課題ととらえ立案する次期中期経営計画（2025年4月にスタート予定）の基盤づくりの年と位置付け、当社の強みである人の成長を軸とした成長戦略策定を遂行してまいります。なお、次期中期経営計画につきましては2024年中の公表を予定しております。

（注）上記の修正計画（連結業績予想）につきましては、発表日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上